

あの日を忘れずに

東小千谷中2年

関

俊弥

十月二十三日、土曜日、午後五時五十六分

新潟県中越大地震、この時のことを僕は忘れ

ません。いえ、忘れてはいけなと思います。

あの日、僕はいつも通りの生活をしていま

した。部活に行き、帰ってきたから三階でゲ

ームをやったり、テレビを見たりしていまし

た。それから、弟と下の階に降りてきました。

その頃の時間は、だいたい五時半ぐらいだ。

たと思います。お母さんが夕飯の準備をして

いる時、僕は弟とテレビを見ていました。サ

ラダ油を取りにお母さんが一階に行ったその

時、テレビが消え、電気も消えて、一瞬持ち

上げられたような感じになりました。最初は何

が起こったか分からなかつたけれど、すぐに

地震だと分かりました。それから横ゆれが感

じられました。いつおさまるのかと思うよう

な長い間地震が続きました。そのあと僕は、

ハッと気が付きました。お母さんは大丈夫かと。

弟とテーブルの下にかくれながら大きな声で「お母さん!!」とさけびました。いくら呼んでも返事がなかつたので、心配になりました。けれど、少ししてからお母さんが下の階から上にあがってきて、奇跡的に家の人はいずれも無事でした。けがはひとつしませんでした。それから僕は他の人達は大丈夫だろうか、ぼくが住んでいる地域の塩谷の人達は大丈夫だろうかと考えました。けれど前向きに考えることにして悪いことは考えないようにしました。しかし、塩谷地区では三人の小学生が亡くなってしまいました。初めてそれを聞いた時には信じられなくて、うそだと思っていました。その時は本当に何も考えられませんでした。僕達は塩谷でそのまま一日をすごしました。その時の地域の人達は暗い顔ばかりでした。次の日は、塩谷の人達みんなが、ヘリコプターに乗り塩谷を脱出しました。なぜヘリコプターに乗り、たかという道がくずが、通るこ

とができなかつたからです。そのヘリコプタ  
ーには亡くなつた三人も乗りました。  
一年経つた今でも仮設住宅での生活を続け  
ています。まだまだふるさとには帰れる状態  
ではありません。また、もとどおりに帰ると  
決めた人も減つてしまいました。しかし、早  
く家に帰るために大人も、子供もがんばつて  
います。ぼくは生活が元にもどつても、あの  
日のことを忘れずいすごしたいと思います。